

菜ノ獣

-sai no kemono-

尾米タケル

【登場人物】

ミヤタ	農務局局員。
オオハラ	農務局特別対策室室長。
ムラカミ	裏社会の何でも屋。
ゴトウダ	ファーム第十二研究所所長。
ザイゼン	生物工学博士。
クボ	ザイゼン博士の助手。
研対1	男のベジタブルマン。
研対2	女のベジタブルマン。
研対3	女のベジタブルマン。
研対4	男のベジタブルマン。
看守	優秀なベジタブルマン。

序

音楽。

明かりがつくとそこは都内にある古いビルの一室。

舞台下手側に応接セット。

舞台前方客席側に大きな窓がある。

舞台上には二人の男。

農務局特別対策室室長のオオハラと局員のミヤタ。

ミヤタ カドタ。カドタマリですか？

オオハラ 君、同期だったよね。ミヤタ君。

ミヤタ はい。

オオハラ ずいぶん親しかったみたいじゃないか。

ミヤタ は、親しいというほどかどうか。

オオハラ 親しくなかったのか？

ミヤタ いえ、以前は部署も同じでしたし、仕事終わりにたまに飲みに行ったりもして
いしましたが、彼女がファームへ行ってからは、そういうこともありませんでしたし…
…。

オオハラ 連絡は取り合っていたんだろ？

ミヤタ 取り合っては…：あ、でもつい先週、連絡がありました。

オオハラ 先週。先週のいつ？

ミヤタ はあ、確か、あの、月曜日に一年ぶりくらいに電話がかかってきました。で、
火曜日水曜日と。

オオハラ 三日連続でかかってきたんだね？

ミヤタ はい。

オオハラ 電話でカドタ君とどんな話をした？

ミヤタ なんとなく言われましても…：あの、カドタが何か？

オオハラ 何か悩んでいるとか、トラブルを抱えているとか、そんな話はなかったかね？

ミヤタ いえ、特に。

オオハラ ファームのことについては何か言ってたか？

ミヤタ いえ！ファームのことについては何も！あ、僕も聞きませんでしたし！

オオハラ 聞かなかった？

ミヤタ はい 職務規定は肝に銘じていますので。

オオハラ ふん…：ミヤタ君、君一つ、僕の個人的な仕事を引き受けてくれないか？

ミヤタ 室長のお仕事をですか？

オオハラ うん。実はこのことはまだ局でも一部の人間しか知らないんだけどね。…：

カドタ君が、行方不明なんだ。

ミヤタ え？

オオハラ 先週の月曜日から研究施設にも出勤していなくてね。連絡も取れないんだ。

ミヤタ 先週の月曜日……？

オオハラ かれこれ、十日になるんだよね。

ミヤタ え、でも僕先週……。

オオハラ うん不思議だよねえ。彼女、姿を消した日から三日連続で君に電話してるんだよね。本当に何も言ってなかったかな？電話で。

ミヤタ いや……。あ、ただ、僕、少しおかしいなとは思ってたんです。

オオハラ というと？

ミヤタ いえ、互いに要件もないのに電話するような仲じゃなかったんです。カドタとは。それが急に電話してきて、ダラダラ世間話みたいなことをするのが、三日も続いたものですか。

オオハラ なるほどね。

ミヤタ もしかして、何か話をしようとしていたの言い出せなかったんでしょうか？

オオハラ うーん、そういう可能性もあるかもしれないね。その電話、間違いなくカドタ君本人だったんだよね？

ミヤタ それは間違いありません。

オオハラ ふん。

ミヤタ ……あの、本人じゃないかもしれないとおっしゃったのは、つまり、何か事件に彼女が巻き込まれている可能性があるということでしょうか？

オオハラ うん、どうだろうね。とにかく、詳しいことは何もわからないんだよ。ミヤタ君。

ミヤタ はあ。心配ですね。

オオハラ 心配だよね。

ミヤタ はい。あの、このこと警察には……。

オオハラ ミヤタ君。事は他ならぬファームで起こったんだよ。我々としても警察の介入は極力避けたい事態なんだよ。

ミヤタ はあ。

オオハラ とは言っても、カドタ君のご家族は大変心配されていてね。

ミヤタ はい。

オオハラ 同じ年ごろの娘をもつ僕としては何とかご家族の力になりたい。しかし農務局特別対策室として動いてしまうと、少々大事になってしまうからね。

ミヤタ ……はあ。

オオハラ そこで。君、有休を取ってファームへ行ってカドタ君の失踪について内密に調べてきてくれないか？

ミヤタ え、僕がですか？

オオハラ これは僕が個人的に君にお願いするんだが。

ミヤタ いや、しかし僕に……。

オオハラ 調査の方は心配しなくてもいい。プロを一人付ける。

ミヤタ プロ、ですか？

オオハラ 僕の古い馴染みだね。便利屋——と呼ばれる男なんだが。ミヤタ 便利屋。

ドアを開ける音。

舞台上にムラカミの事務所。デスクの上にはパソコン。

上手からムラカミ、顔に布袋を被せ、手を後ろに縛った男を連れて入ってくる。そのまま下手へはける。

オオハラ 金次第でどんな仕事でも引き受ける。ま、早い話、裏の世界の何でも屋だ。
ミヤタ 裏の世界の何でも屋……あの、何でもって例えばどういうことをするんでしょ
うか？

オオハラ 何でも、っていうくらいだから、何でもするんじゃないの？

ミヤタ 何でも、ですか。あの、例えば、東京湾に人沈めちゃったりとか、自殺に見せ
かけて、人を殺しちゃったりとか……。

オオハラ うーん、どうだろうね？

ミヤタ ……。

オオハラ いや、僕はそんな仕事させたことないよ？

ミヤタ はあ、室長、折角のお話ですが、僕には少し荷が重いというか……。

オオハラ ミヤタ君。君もせっかく国家公務員になったんだ。いつまでもこんな分室に
籠って一日中SNS開いてベジタブルちゃん公式アカウントからつぶやいてるのいや
だろ？

ミヤタ はい！

オオハラ 今回の仕事はあくまで非公式だからね。君が局内で評価を得ることはない。

だが、このオオハラ、信頼関係を築けた人間は大切に作る男だからね。頼んだよ！

ミヤタ ……はい！

オオハラ じゃあ明日の朝十時に今から言う住所を尋ねてくれたまえ。

ミヤタ あ、はい。(手帳を出してメモを取ろうとする)

オオハラ ミヤタ君、何をしている？

ミヤタ はい？

オオハラ 今後の為に覚えておきたまえ、こういう伏せておきたい情報はすべて頭に入
れてしまうんだよ。

ミヤタ あ、はい。

オオハラ 一回しか言わないよ。

ミヤタ あ、ちよっと待ってください。

オオハラ 東京都千代田区神田二十一の八の三、棚橋ビル三〇一。

ミヤタ え、あ、ちよ……神田、二十一の八……棚橋ビル？……お向かいのビルの三階
ですわね。

オオハラ あ、そうなの？……奇遇だね。

二人、窓から向かいのビルを見下ろす。

ムラカミ出てきて、デスクに座りパソコンを操作する。

ミヤタ 室長は訪ねたことないんですか？
オオハラ いつも使いをやるからね。
ムラカミ お、きてるきてる。コードネーム“ビッグボデイ”こと、オオハラちゃんか
らお仕事メールが。

オオハラ じゃ、ミヤタ君、これ。携帯電話と、君とムラカミのパスだ。

オオハラ、上着のポケットから携帯電話とパスを取り出し、ミヤタにわたす。

ミヤタ え？

オオハラ 今後はそれで連絡を取り合おう。

ミヤタ ……。

オオハラ いや、君なら必ず引き受けてくれると思ったよ。

ミヤタ はあ。

オオハラ じゃ、頼んだよ、ミヤタ君。

オオハラ、下手へはけようとする。

ミヤタ あ、あの、オオハラ室長！

オオハラ 何だい？

ミヤタ あの、どうして、僕なんですか？

オオハラ 君はカドタ君と同期だしね。それに。

ミヤタ それに？

オオハラ 君が局で一番ヒマそうだったからね。

ミヤタ ですよ。

オオハラ、下手へはける。

ミヤタ あ、室長！

ミヤタ、オオハラを追って下手へ。

ムラカミ なるほど……ね。オオハラのやろう、相変わらず食えねえ男だな。「ミヤタを
監視せよ」——か。

音楽。

暗転。

第一場

ファーム第十二研究所ロビー。

舞台上、下手側に応接セット。

客席からは見えないが、下手に出入り口に通じる廊下。

上手に事務所・トイレ・給湯室など。

二階に研究室・宿直室・ゲストルーム。

舞台前方、客席側は一面の大きな窓。

窓の外は広場になっている。

舞台奥、上手の袖に階段があるという設定。

下手から看守に案内されミヤタ・ムラカミが入ってくる。

看守、衣服はすべて緑色で、頭頂部から植物が生えている。

看守 どうぞこちらでお待ちください。すぐに所長がまいりますので。お荷物はいったんこちらに置かせていただきますね。

ミヤタ ありがとうございます。

看守 では、失礼します。

看守、上手へはける。

ムラカミ あゝ、しかし来るだけで疲れちゃったな。何が政府指定特別生産区域だよ。

どんな所かと思つたら、ただの田舎じゃねーか。政府は何でこんなもんを秘密にしてんだ？あ、あれか。人類の奇跡なんて喧伝してるベジタブルマンがこんな辺鄙な田舎で作られてるなんてカッコ悪いからそれで秘密にしてんのか。なあ？そうなんだろ？

ミヤタ 知りませんよ。僕は。

ムラカミ お前何にも知らないんだなあ。ホントに農務局の人間なのか？

ミヤタ あの、ムラカミさん、少し気をつけてくださいよ。今どき農務局の中でベジタブルちゃんのことベジタブルマンなんて言う人間はいないんですから。

ムラカミ どつちでもいいじゃねーかそんなもん。

ミヤタ よくありませんよ。ベジタブルマンなんていったら何だか人っぽくてみんな食べる気失くしちゃうじゃないですか。

ムラカミ くだらねーよ。どんな呼び方しようが俺は食いたいと思わないね。あんなもん。

ミヤタ あんなもん？ムラカミさんはベジタブルちゃんがどういふものか知ってるんですか？

ムラカミ 知らねーよ。得体が知れねーからあんなもんつつつてんだよ。限りなく人間に近い植物つつたか？俺には理解不能だね。

ミヤタ ムラカミさん、ムラカミさんが個人的にどういふ考えをもってようが自由ですけどね、とにかくここでの一週間、言動にはくれぐれも気をつけてくださいよ。ムラ

カミさんが農務局の人間じゃないのが知れたら本当にまずいんですから。お願いしま
すよ！

ムラカミ わかってるよ。

ミヤタ あくまで僕たちは研修って形でここに来てるんですからね。

ムラカミ わかっているつつつてんだろ？お前こそ下手打つんじゃないぞ。この奴らは
全員容疑者だからな。

ミヤタ 容疑者？容疑者ってどういうことですか？

ムラカミ こういう事件は身近な人間が怪しいんだよ。

ミヤタ 事件って、ムラカミさんはカドタの失踪は事件だって考えてるんですか？

ムラカミ 他にカドタマリに消える理由があるか？将来を約束されたエリート中のエリ

ートが蒸発しちまう理由があるかよ？

ミヤタ それをこれから調べるんじゃないですか。

ムラカミ ま、じきにわかることだ。とにかく、この連中に変に警戒されないように、

お前はあくまで自然体でいろよ。

ミヤタ ……。

ムラカミ ところで、あれ、ふれてやった方がよかったかな？

ミヤタ え？

ムラカミ さっきの奴の。(自身の頭頂部を指し) あれ。

ミヤタ いやあ何とも……。

ムラカミ まさかあれ、この制服ってことはねえだろうな。

ミヤタ まさか、テーマパークじゃないんですから。

ムラカミ 俺やだからな、あんな恰好すんの。

ミヤタ 僕だって嫌ですよ！

上手袖からゴトウダの声が聞こえて来る。

看守に何やら指示をしている様子。

間。

上手から所長のゴトウダ登場。

ゴトウダ いや、どうもどうも。遠いところを。

ゴトウダ、作業着にスラックスという恰好。

ミヤタ・ムラカミ、互いに目を合わせてから、立ち上がる。

ミヤタ あ、どうも農務局のミヤタです。すいません朝早くから。

ゴツだ いえいえ。所長のゴトウダです。

ムラカミ ムラカミです。

ムラカミ、自身のネクタイの結び目にさわる。

「カシヤ」というカメラのシャッター音が微かに鳴る。

ミヤタ・ゴトウダ ……？
ゴトウダ ……あ、どうぞどうぞ。
ミヤタ あ、はい。

一同着席。

ゴトウダ いやあ道中大変だったでしょ？道は悪いですしねえ。
ミヤタ いやあ、スタッフの方に迎えに来ていただいて本当に助かりました。
ゴトウダ スタッフ？
ミヤタ ええ。何かずっと運転もしていただいて。
ゴトウダ あー！何か粗相しませんでした？
ミヤタ いえ、そんな。すごく親切にしてください。
ゴトウダ あ、そうですね。ちよつとにぶいところもあるんですけどね、いい子なんですよ。

ミヤタ はあ。

ムラカミ いやあホント助かりましたよ。

ゴトウダ お役に立てたならよかったです。

ムラカミ、ネクタイをさわる。カメラのシャッター音。

ゴトウダ ……。

ムラカミ ありがとうございます。

ミヤタ ああ〜！でもホント空気もおいしくていいところですね！窓から見える景色も、何だか絵画とか写真みたいですもんね！

ゴトウダ そうですかねえ、まあいつとき見る分にはいいかもしれませんがね、何年もここで暮らさなきゃならない人間からしたら不便で仕方ありませんよ。

ゴトウダが外を見て話している間にミヤタ、声を出さずに、

ミヤタ 何やってんですか！

ムラカミ ？

ミヤタ 何やってんですか！

ムラカミ 何？

ミヤタ だから何やって――

ゴトウダ どうされました？

ミヤタ え？いえ！でもやっぱ僕たちにはうらやましいなあ〜って。こういう環境。

ゴトウダ そうですか？

ミヤタ ええ。普段汚い空気しか吸ってないんで、何か身も心も洗われるような気がしますよ！

ゴトウダ そんなもんですかね。

上手から看守、お茶を持って入ってくる。

看守 失礼します。どうぞ。

ミヤタ あ、ありがとうございます。

看守 どうぞ。

ムラカミ (ネクタイに触りながら) どうも。

シャッター音。

看守 ……？

ミヤタ あ、ちよつと失礼します。

ミヤタ、ムラカミの腕をつかんで立ち上がらせようとする。

ムラカミ 何だよ。

ミヤタ いいからちよつと！(ムラカミを立ち上がらせ)すみませんちよつとトイレに。

ミヤタ、ムラカミを下手へ連れて行くこうとする。

ゴトウダ あ、トイレこつちですよ。

ミヤタ あ、こつちでします！

ミヤタ、ムラカミを連れてそのまま下手へはける。

ゴトウダ え、ちよつと？

顔を見合わせるゴトウダと看守。

ミヤタ・ムラカミすぐに戻ってくる。

ムラカミ、ノーネクタイになっている。

ミヤタのズボンのポケットからムラカミのネクタイの一部が見えている。

ミヤタ あ、すみませんお待たせしました。

ゴトウダ ……いえ。

ミヤタ あ、でもあれですね。こういう恵まれた環境があるから、美味しいベジタブルちゃんが育つんですね。

ゴトウダ はあ、まあ奴らにはいい環境なのかもしれないね。

ミヤタ いやあホント、天気もいいし、気持ちいいなあ。

ゴトウダ あ、そうだ今日のお昼はお二人の歓迎会にバーベキューやりますからね！

ミヤタ え、ベジタブルちゃんのバーベキューですか！

ゴトウダ 食材はその辺にいくらでもありますから。どれでも言ってくれたら僕その場でさばきますからね！

ミヤタ えく！贅沢だなあ！

ゴトウダ この子なんかどうですか？

ミヤタ え？

看守 え？僕ですか？

看守、目を輝かせるようにしてミヤタを見つめる。
間。

ゴトウダ ちよつと不味そうですね！ハッハッハ！

ミヤタ あ、ははは……。

ゴトウダ もうちよつと旨そうになれよ！

看守 すいません……。